

令和2年度（2020年度）
青年農業者・新規就農者実態補完調査結果

～新規就農者（新規学卒・Uターン・新規参入者）、雇用就農者、青年農業者～

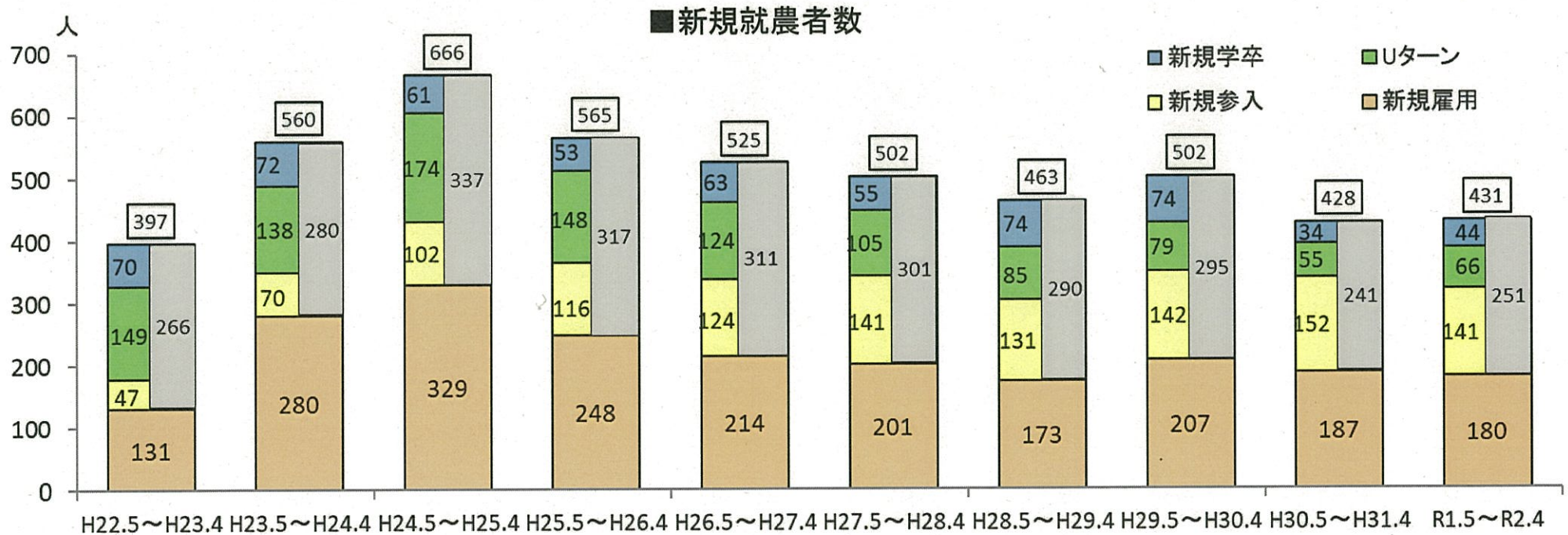
令和3年（2021年）2月

熊本県

1 新規就農者に関する調査結果(令和2年度調査)

○新規就農者	合計	4 3 1人	[前期比	1%(3人)増]
(内訳) 新規自営就農者	小計	2 5 1人	[前期比	4%(10人)増]
新規学卒就農者	親元就農	4 4人	[前期比	29%(10人)増]
Uターン就農者		6 6人	[前期比	20%(11人)増]
新規参入就農者		1 4 1人	[前期比	7%(11人)減]
新規雇用就農者		1 8 0人	[前期比	4%(7人)減]

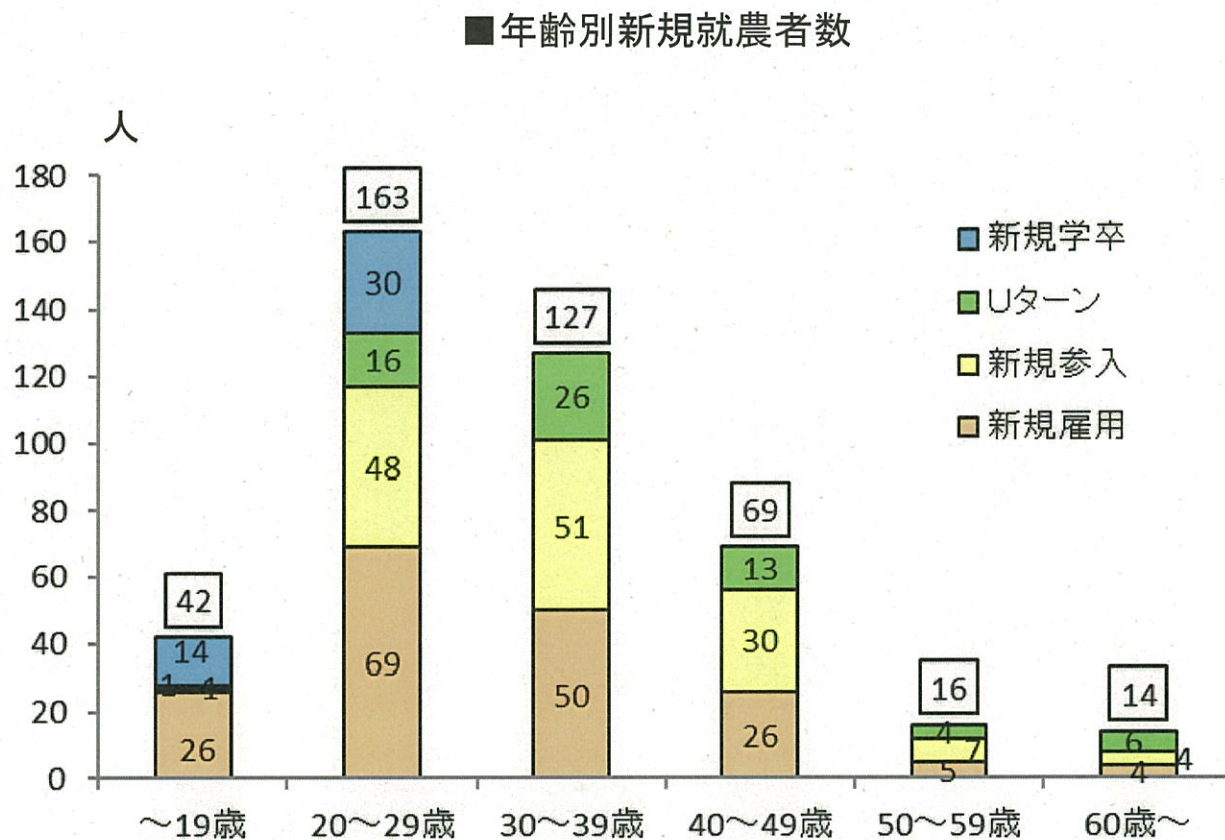
○令和元年5月から令和2年4月までの間における県内の新規就農者の総数は431人(前期より3人増)となった。
 ○内訳としては、新規学卒就農者が前期より10人増の44人、Uターン就農者が11人増の66人、また、非農家出身者等の新規参入就農者は11人減の141人で、新規自営就農者は10人増の251人となった。
 ○県内の農業法人の新規雇用就農者数は、前期より7人減の180人となった。



2 年齢別の状況

○新規就農者数を年齢別で見ると、20代の就農者が163人と最も多く、次いで、30代が127人となっている。

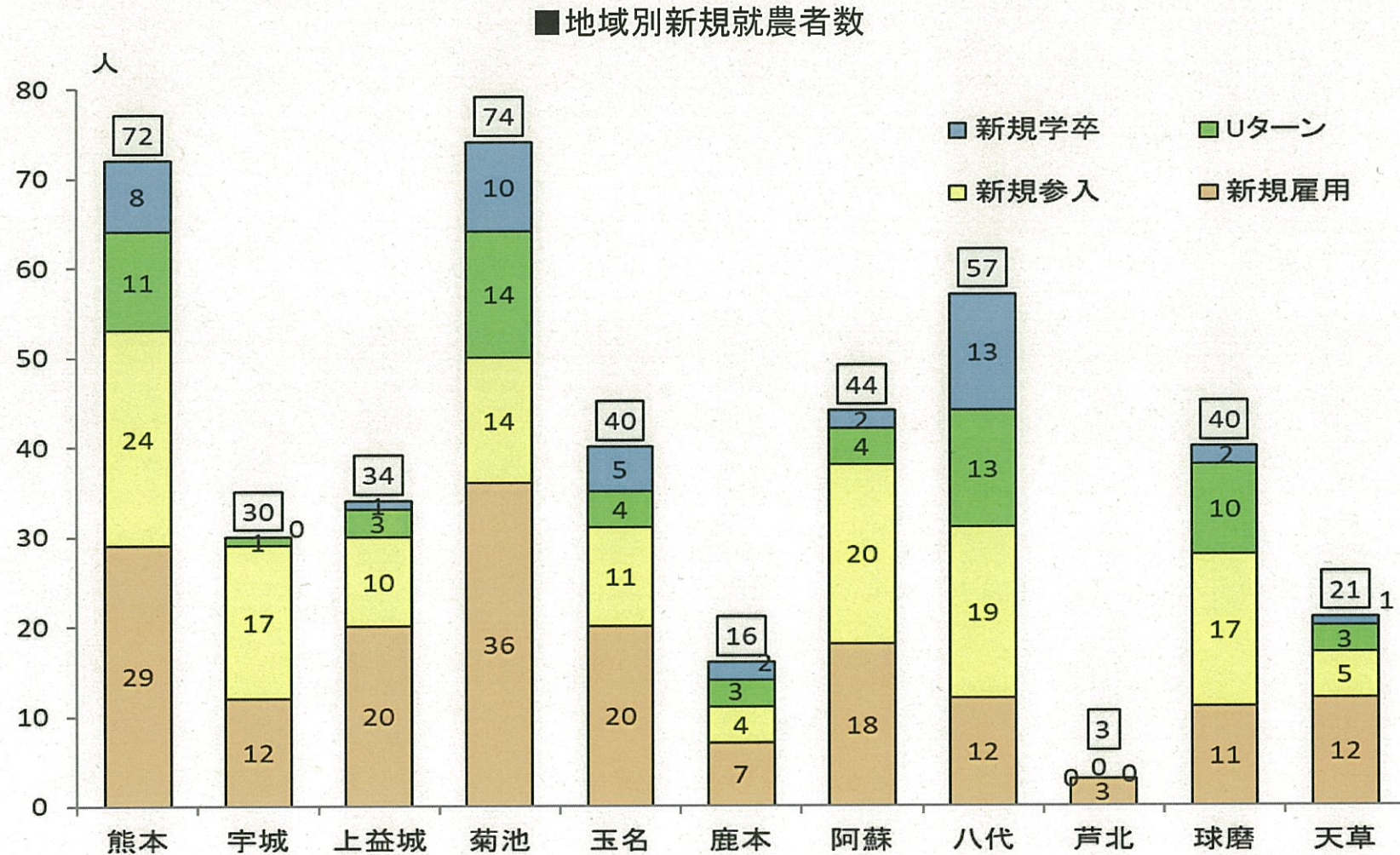
○就農形態を年齢別に見ると、新規学卒就農者は20代で多く、Uターン就農者は30代、新規参入就農者、新規雇用就農者は20代、30代で多くなっている。



3 地域別の状況

○新規就農者数を地域別で見ると、菊池地域が74人で最も多く、次いで熊本地域が72人、八代地域が57人であった。

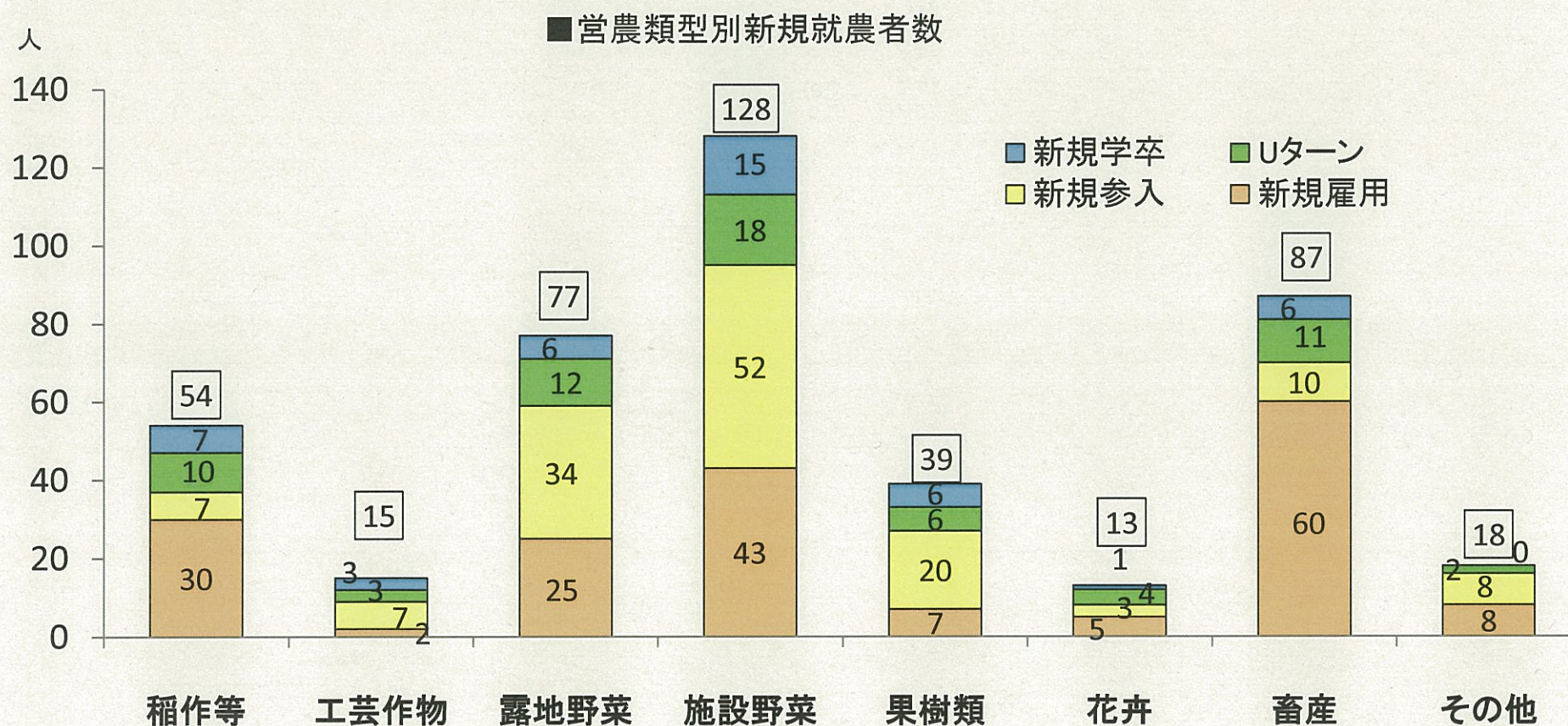
○就農形態を地域別に見ると、新規学卒就農者は八代地域、Uターン就農者は菊池地域、新規参入就農者は熊本地域、新規雇用就農者は菊池地域で多くなっている。



4 営農類型別の状況

○新規就農者数を営農類型別で見ると、施設野菜が128人で最も多く、次いで畜産87人、露地野菜77人であった。

○就農形態を営農類型別に見ると、新規学卒就農者、Uターン就農者、新規参入就農者の新規自営就農者は施設野菜で多く、新規雇用就農者は畜産で多くなっている。



5 新規自営就農者の農業次世代人材投資資金の活用状況について

(単位:人)

○新規自営就農者のうち交付者は、106人であり、交付対象となる50歳未満の新規就農者の46%であった。

○就農形態別に見ると、新規学卒就農者11%、Uターン就農者で14%、新規参入就農者においては72%に交付されている。

	全体数	交付者数			
		うち50歳未満	計	準備型	経営開始型
新規自営就農者数	251	230	106	43	78
新規学卒	44	44	5	3	2
Uターン	66	56	8	4	4
新規参入	141	130	93	36	72

※交付者の合計人数は、準備型、経営開始型の重複を除く実人数

【参考】 R1年度農業次世代人材投資事業実績

	交付者数	備考
交付内容	801	全国1位
準備型	88	全国3位
経営開始型	713	全国1位

国公表資料

6 新規自営就農者の定着状況について

○平成26年5月から平成31年4月までの新規自営就農者(1,438人)のうち離農者は46人で、離農率は3.2%と前年調査(平成25年5月～30年4月)の2.6%よりも0.6ポイント増加したが依然として低い水準を保っている。

○親元就農者と新規参入就農者との比較では、新規参入就農者の離農率が若干高くなった。

単位：人、%

	H26.5～H27.4就農者 (5年目)			H27.5～H28.4就農者 (4年目)			H28.5～H29.4就農者 (3年目)			H29.5～H30.4就農者 (2年目)			H30.5～H31.4就農者 (1年目)			H26.5～H31.4 (5年間の計)		
	就農者数	離農者数	離農率	就農者数	離農者数	離農率	就農者数	離農者数	離農率	就農者数	離農者数	離農率	就農者数	離農者数	離農率	就農者数	離農者数	離農率
親元就農	187	7	3.7%	160	4	2.5%	159	7	4.4%	153	2	1.3%	89	2	2.2%	748	22	2.9%
新規参入	124	10	8.1%	141	4	2.8%	131	2	1.5%	142	5	3.5%	152	3	2.0%	690	24	3.5%
計	311	17	5.5%	301	8	2.7%	290	9	3.1%	295	7	2.4%	241	5	2.1%	1,438	46	3.2%